

授 業 名	運動療法学Ⅱ		授 業 形 態	講 義
	担 当 教 員 名	水谷 貴佐、池田 卓矢	配 当 学 期	2 年(前期)
単 位 数			1 単 位	
	時 間 数	30 時 間		
授 業 概 要 学 習 目 標	<p>〔授業概要〕 運動療法は患者の身体機能を非侵襲的に直接改善・向上することができる唯一の手段です。この授業では、まず多くの疾患で共通する、理学療法士が修得すべき基本的介入方法について学んでいく。</p> <p>〔学習目標〕 1.代表的疾患に用いられる関節可動域維持・拡大運動の手段について学ぶ。 2.対象者の筋力低下の程度に応じた筋力増強トレーニングについて学ぶ。 3.バランス機能の改善、有酸素運動を中心とした運動処方について学ぶ。</p>			
授 業 回 数	授 業 の 内 容			
第 1 回	関節可動域制限に対する運動療法①			〔水谷〕
第 2 回	関節可動域制限に対する運動療法②			〔水谷〕
第 3 回	関節可動域制限に対する運動療法③			〔水谷〕
第 4 回	関節可動域制限に対する運動療法④			〔水谷〕
第 5 回	関節可動域制限に対する運動療法⑤			〔水谷〕
第 6 回	関節可動域制限に対する運動療法⑥			〔水谷〕
第 7 回	関節可動域制限に対する運動療法⑦			〔水谷〕
第 8 回	筋機能障害に対する運動療法①			〔水谷〕
第 9 回	筋機能障害に対する運動療法②			〔水谷〕
第 10 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際①			〔水谷〕
第 11 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際②			〔水谷〕
第 12 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際③			〔水谷〕
第 13 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際④			〔水谷〕
第 14 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際⑤			〔水谷〕
第 15 回	各種障害に対する運動療法の理論と実際⑥			〔水谷〕
評 価 方 法	小テスト(30%)、課題提出(40%)、課題発表(30%)で評価します。			
教 科 書 参 考 図 書	<p>〔教科書〕 運動療法学 第2版(文光堂)</p> <p>〔参考図書〕 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)</p>			
履 修 上 の 留 意 点	運動療法の基礎を中心に講義をします。運動療法の理解には、解剖学、生理学、運動学などの基礎科目が重要であるので、それらの学習を並行して進めます。			
メ ッ セ ー ジ	運動療法は理学療法的重要な治療手段の一つです。この講義では、並行して行われる各論の講義の基本を学ぶことを目標とします。			